

～東京都江戸川区の例～

## すくすくスクールでの活動 ～自らの場所～

自分たちの場所だから自分たちの責任で自分たちが運営をする。当たり前前のが、自覚と責任を育てていきます。



←すくすく集会で  
ルールをつくる

小さな子ども同士をまとめたり  
話し合わせたりします →



↑図書担当が自分  
たちで本ならべ



# すくすくスクールでの活動 ～年齢ミックス～

大きな子が小さな子の世話をする。縦割り班など作ったわけではないのに、自然と年齢ミックスが行われます。かつて路地裏で遊んでいた風景が生まれています。



↑ 小さな子の事を考えながらルールを決めます



↑ 年上からたくさんのことを教わり・学んでいきます

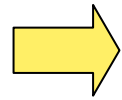


# 子どもたちの変化



## ～児童の変化①～

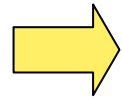
「〇〇さん、これを私たちやりたい！どうしたらいい？」



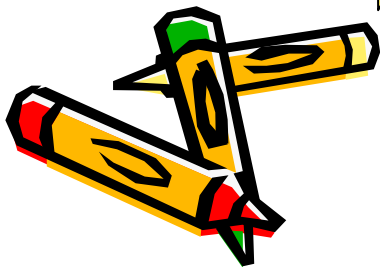
遊びが出来なかった子どもが遊びをつくる。受身だった子ども達が地域の人をお願いに行く。

## ～児童の変化②～

「まあ、あいつら弟みたいなものだから当たり前」



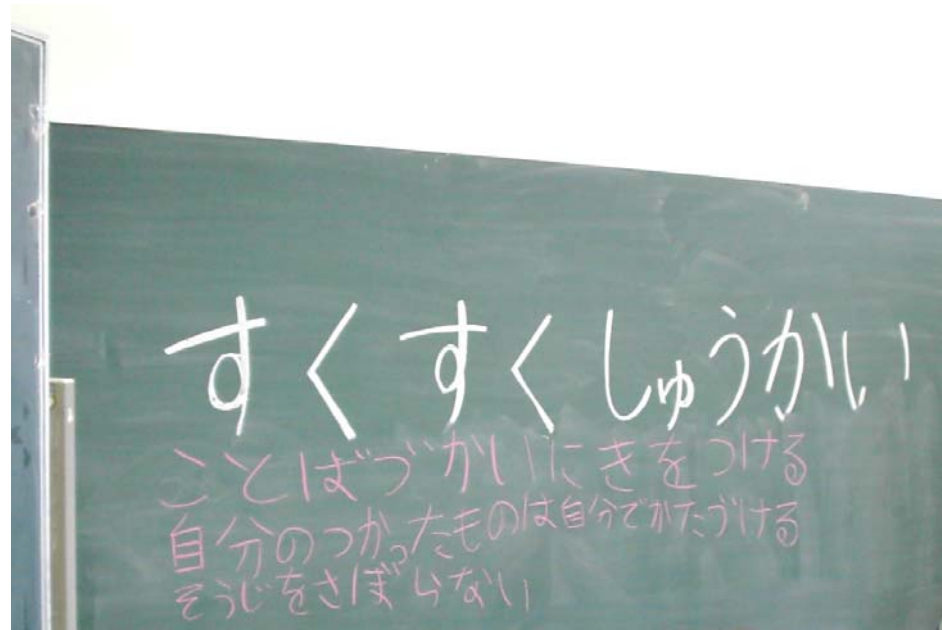
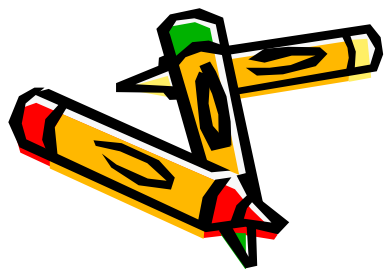
一人が当たり前だったのが、異年齢が当たり前になり・・・自然にお互いを守りあう。



# 子どもたちの夢

～全員ミーティングにて～

「うちのすすくすくスクールなんだから  
もっとちゃんと考えようよ！」



# サポーターの 声

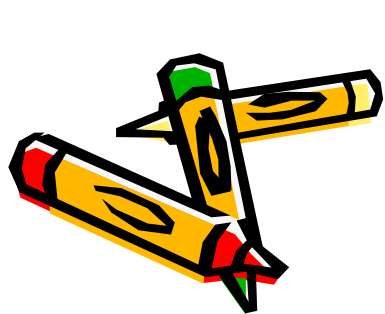
～ボランティア参加～

「100人の孫ができた、気付いたら毎日来ている」

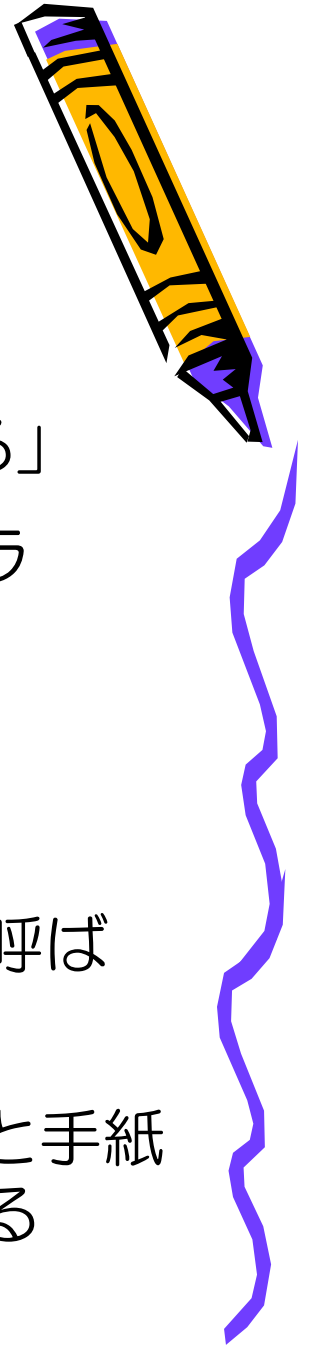
→ 保護者・地域熟年者などが、毎日数名ボランティア参加

～地域との交流～

「すくすくによって地域で〇〇のおじいちゃんと呼ばれる」



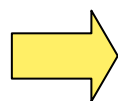
→ すくすくスクールをきっかけに児童と手紙の交流や学校の外での交流が生まれる



# 学校との関わりの中で・・・

～学校への協力～

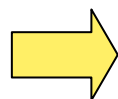
「すすすすでいつも学校に来る。出来ることならなんでもやるよ」



学校の様子が見えるようになる。学校環境の整備など多彩に協力。

～学校教育への協力～

「本当は学校の授業にも昔から協力したかった」



学校の総合的な学習への協力。学校の読書週間にあわせたイベント実施などの協働。

